

令和5年度秋田県総合政策審議会第1回未来創造・地域社会部会（議事録要旨）

1 日時 令和5年5月24日（水）15:20～17:00

2 場所 正庁

3 出席者（敬称略）

【未来創造・地域社会部会委員】

石田万梨奈（onozucolor 代表）

鈴木 了（まちづくり団体HAPPO TURN メンバー）

能登 祐子（能代市自治会連合協議会 会長）

原田美菜子（認定特定非営利活動法人環境あきた県民フォーラム 副理事長）

【県】

今川 聡（あきた未来創造部次長）

橋本 秀樹（あきた未来創造部次長）

橋本 裕巳（あきた未来創造部あきた未来戦略課長）

真鍋 弘毅（あきた未来創造部移住・定住促進課長）

六澤恵理子（あきた未来創造部次世代・女性活躍支援課長）

飯澤 主貴（あきた未来創造部地域づくり推進課長）

鈴木 雄輝（企画振興部市町村課長）

信太 博之（企画振興部デジタル政策推進課長）

阿部 秀樹（健康福祉部健康づくり推進課 国保医療指導室チームリーダー）

中村 康二（健康福祉部保健・疾病対策課政策監）

近江 賢治（生活環境部環境管理課長）

田口 好信（生活環境部温暖化対策課長）

大門 洋（生活環境部環境整備課長）

高野 優（建設部都市計画課長）

近藤 雅（建設部下水道マネジメント推進課長）

金沢 克己（建設部建築住宅課長）

安田 友也（教育庁幼保推進課チームリーダー）

伊藤 淳（教育庁高校教育課チームリーダー）

佐々木達也（教育庁生涯学習課チームリーダー）

4 あいさつ（今川あきた未来創造部次長）

当部会は、新プランの戦略4「未来創造・地域社会戦略」について、委員の皆様の専門的

な立場から議論をしていただく場である。

戦略4は、県政の最重要課題である人口減少問題に関して、自然減や社会減の抑制に向けて取り組むほか、県民誰もが、生き生きと暮らせる持続可能な社会づくりを行うものである。

今年度予算では、とりわけ若年女性の県内定着・回帰や賃金水準の向上に重点的に取り組むとともに脱炭素化、デジタル・ガバメントなど、時代の流れに対応した社会づくりを進めている。

委員の皆様には、新プランの着実な推進や実現のため、各種施策について、効果的な実施方法や、来年度事業の新たな展開方針などについて客観的な御助言をいただきたい。

限られた期間ではあるが、それぞれの活動を通じた経験と知見に基づく、忌憚のない御意見をいただければと考えているので、ぜひよろしく願います。

5 委員の紹介

6 事務局紹介

7 部会長の選出及び部会長代理の指名

委員の互選により、能登祐子委員が部会長に選出された。

能登部会長により、加藤未希委員が部会長代理に指名された。

※加藤未希委員が欠席であったことから、事務局で確認したところ、部会長代理の就任の承諾をいただいたため、加藤未希委員を部会長代理に決定する。

8 議事

(1) 今年度の未来創造・地域社会部会の進め方について

橋本あきた未来戦略課長

部会のスケジュール等について、部会資料-1により説明

● 能登部会長

ただいまの説明について、質問、意見はあるか。

(なし)

(2) 「新秋田元気創造プラン」戦略4の取組について

橋本あきた未来戦略課長

部会資料-2及び3の構成について説明

① 目指す姿1

□真鍋移住・定住促進課長

「新秋田元気創造プラン」戦略4・目指す姿1の主要な事業について、部会資料ー2及び3により説明

●能登委員

今年度初めての開催ということもあり、自己紹介を兼ねて、御意見をお伺いしたい。

●石田委員

10年前、五城目町に地域おこし協力隊として移住してから3年間、移住定住支援や起業支援、その中で自分が女性ということもあり、女性の起業支援に関わった。

五城目朝市 plus+を企画したが、本当にスタートアップのミニミニ版というような視点から企画した。

五城目町での経験は、地域の方々一人ひとりがやりたいこと、持てる力を発揮しながら、行動していく、それがたまたま市民活動の場合もあるし、起業という分かりやすい形に実ることもあった。

そういった形で、五城目町で私たちが取り組んできたことは、町の方々がやりたいことを見つけて、それを支援するということが基本にしており、その結果、町全体がとても活性化して、五城目町が面白そうだなということで、町外から学生や視察者が来るなど、関係人口や交流人口がものすごく増えた。

協力隊の任期が終わった後も、まさに発酵するように、ふつふつと、イノベーションが生まれ続けていると感じている。

そのことが原体験となり、一人ひとりの持てる力を最大限に発揮できたり、人が生かされる風土づくり、お互いが勇気づけあえる風土づくりということを目指し、onozucolar、各々の色が生かされるということを屋号にして、今、活動している。

キャリア支援、コーチングマネジメント、いきいき働ける職場づくり、コミュニケーションといったところで仕事をしており、昨年からは企業への組織開発もしている。

幅広くというよりも、そういった視点が多くなることを了承いただきたいと思う。

●鈴木委員

八峰町が地元で、大阪の大学で建築の勉強をし、千葉県で働いていた。

そこで結婚し、子どもが生まれるタイミングで、埼玉県出身の妻と子育てのしやすい場所として、候補に挙がった私の地元、八峰町で子育てをしようとなった。

今となれば思い切った決断をしたと思うが、決断して、7年程前に秋田県へ帰ってきた。

その時、八峰町の地域おこし協力隊で、3年間程空き家や移住などをテーマとして活動し、自己紹介に書いてある「まちづくり団体 HAPPO TURN」を立ち上げた。

この団体は、私が協力隊として行政職員と一緒に移住や空き家を使ったイベント等の企

画はできるが、実際に動いてくれる方がいなければ実行できなかったことから、八峰町民の方に声を掛けて、実際に動いてくれるチームを作ったものである。

その時は、移住ツアーが全国で盛んだったこともあり、移住に興味のある方を首都圏から呼び、首都圏からの移住ツアーのサポートや婚活イベントの運営チームとしても協力してもらった。

3年間の任期終了後、私は自営業として独立して、建築士やコテージ宿泊施設の運営などを行っている。

団体のメンバーも本業や子育て等で忙しい時期になったため、実際の活動は、協力隊任期満了後は十分にできずにいる。頑張った時代と、本業や子育てで忙しくなり活動できていない時代を経て、難しさも感じているので、どうしたらうまくいったかということを出しながら発言したい。

当部会では唯一の男性なので、実際の私の子育て体験の中での思いも発言したい。

質問だが、秋田暮らし交流拠点センターの場所や規模を、話せる範囲で教えてほしい。

□真鍋移住・定住促進課長

都内、京橋地区への設置を考えている。

東京駅から徒歩7分程度で東京メトロと都営浅草線の京橋駅があり、空港にもつながっている。

また、宝町の駅から2分程度のところにあり、新幹線や飛行機等のアクセスも良い場所にあると思う。

広さは約100平米程度で、就職相談のワンストップ化をメインとする。既に移住・就職・学生就活の相談員が分かれ、様々な場所で相談対応をしているが、それを集約し、相談員7名のほか、東京事務所職員2名を配置し、運営していきたい。

収容人数は20人程度なので、プッシュ型の交流イベントを行い、秋田への移住者や希望者だけでなく、秋田に関心のある方々も訪れるようなハードルの低い拠点にしていきたい。

●鈴木委員

2015年くらいからAターンサポートセンターに何度も足を運び、親身になっていろいろと相談に乗ってくれたことが後押しとなり、秋田に帰れるかもしれない、という自信になった。

Aターンサポートセンターの進藤相談員は、「秋田に帰れ、帰れ」と言わず、慎重に、「あなたの人生だから、私は別にプッシュはしない。正しい情報を教えるけれども、決断するのはあなたですよ」、と本当に寄り添ってくれる方で、心強い存在であった。

有楽町のAターンサポートセンターは、非常に駅近で、入居する交通会館内には、にぎやかなマルシェや本屋があったり、商業施設が近く、ついでに立ち寄ることができた。

貴重な土日の休みに、Aターンサポートセンターに相談だけをして、家に帰るのはもった

いないため、周辺施設が充実していたら行きやすさがある。

周りの環境はどういったところか。

□真鍋移住・定住促進課長

周辺環境は、銀座の中央通りから一本通りを入った場所にあり、大通りから歩いて、1分ぐらいで行ける場所である。

このエリアはアートを推し出したり、若い人が集まるショッピングモールを作っている段階で、国家戦略特区にも指定されており、大きなビルがどんどん建設されている場所である。

これからの伸びしろも含めて、特に若い人に非常に魅力的な場所にあるので、アートの要素等も絡めながら、拠点のデザインや周知のPRをやりたい。

●鈴木委員

東京で働く方は、休日を自分のために使いたい人が多いと思うので、行きやすさなどをアピールすれば、人が来るきっかけになると思う。

●能登部会長

オープンはいつか。

□真鍋移住・定住促進課長

10月頃である。

●原田委員

2002年頃、当時NPO同士の間支援を行うNPO法人にインターンとして所属していた時、環境あきた県民フォーラムの立ち上げで、若干関係したことをきっかけに、現在、理事として参加している。

当時、秋田で仕事をする中で、地元に関わりを持つことで自分自身の元気を得たい気持ちから、NPOを勉強したいと思い、インターンなどを探していた。

相談をしてきた事業者の一つに、北海道の市民風力発電というところがあり、市民から出資を募って市民の力で風力発電施設を立てる取組をしている方がいた。

秋田で初めてその取組をするということで、セミナーのセッティングや事務所の開設等の個人的なお手伝いをきっかけに、そちらの会社で、現在、県内の風力発電所の開発や運営までの許認可関係等の仕事をしている。

環境あきた県民フォーラムは、環境活動をしたいけれどもやり方が分からない等といった悩みがある方々の課題解決や、そのお手伝いができる組織だと思っており、そこで役に立ちたいと長年携わっている。

今回の新秋田元気創造プランでは、主に目指す姿5「脱炭素化の実現を目指す地域社会の形成」について大きく関わる部分だと思うが、女性という視点からも協力させていただきたいので、よろしく願います。

●能登部会長

自治会活動から始まった私の地域づくりであるが、活動をしなが、自治会は既存の組織で非常に大事なものだということが徐々に分かった。

まとめると、コミュニティの大切さ、ということであり、10年前にコミュニティの店舗である「夢工房咲く咲く」という建物を建てた。

そこで毎日活動をしており、特技を持つ方たちが輝けるように講座の開催やレンタルスペースでランチの提供をしていただいている。

今、関係人口の増加に向け、都会の方々との交流などもしている。

人脈を生かした地域づくりをしていて、その中で色々な人を巻き込みながら活動に結び付けているが、どこも同じだと思うが、本当にマンパワーが不足しており、少子高齢化そのものである。

また、能代市内は空洞化が著しく、大型店が国道7号にできたために、人が郊外に流れている。街中に少しでも人の流れを戻すため、若者から高齢者みんなでマルシェや朝市を開催し、皆さんが立ち寄れる拠点を作る活動をしている。

人が少なくなっているのは秋田県だけではなく、全国で言えることなので、それをどうしたら改善できるかということが私たちの部会である。皆さんから活発な御意見をいただきながら、どうやったら良い施策ができるか話し合いたい。

次に、目指す姿2及び3について説明をお願いする。

②目指す姿2・3

□六澤次世代・女性活躍支援課長

「新秋田元気創造プラン」戦略4・目指す姿2及び3の主要な事業について、部会資料1-2及び3により説明

●能登部会長

今の説明について意見を出していただきたい。

育休は、どのぐらいの割合で取得しているのか。

□六澤次世代・女性活躍支援課長

男性と女性ではかなり差があり、女性は8割以上の方が取得しているが、男性は今、秋田県は17%となっている。

●能登部会長

そこはもう少し改善してほしいと思う。

●鈴木委員

一人目の子どもは、県外で働いていたときに生まれたが、少ししか休めなかった記憶があり、二人目は秋田で生まれ、当時は協力隊として活動していたが、長期間は休まなかった。

当時、私の意識も、育休について十分に分からなかったと思う。

育休に関して言うと、「育休」という言葉は広まっているが、その時に、女性は何をしてほしいのか、男性は何をするのかといった具体的なところは、その家庭によって、全く異なると思うが、そういった内容を広められたら良いと思う。

二人目が生まれたら、忙し過ぎて覚えてないことがたくさんあり、赤ちゃんを育てた経験という夫婦での積み重ねを本当はすべきだった。何が困ったか、何をして助かったか、という記録を残せば良かったなと思ったが、忙しくて本当に記憶がない。

そういった積み重ねが夫婦間だけではなく、全体的に教える知識としてもあればと感じる。

そのためにも育休が必要だとなれば良いと思う。

□六澤次世代・女性活躍支援課長

結婚・子育てに関しては、未婚化・晩婚化・晩産化、これは全国的な傾向であるが、こういったものにも歯止めをかけ、若い世代に結婚や出産・子育てに前向きな意識を持ってもらうために必要な取組や、男性の育児参画への関わり、参加促進のための取組についての意見をお願いしたい。

●石田委員

育児休業法の改正などがあり、それが進むと良いと思う。また、男性の育児休暇取得促進のための企業向けセミナーの開催などもあり、良いと思う。

しかし、男女共同参画センターなどで、そういう趣旨のセミナーを男性向けに開催しても、自ら参加する男性というのは非常に少ない。もともと意識が低い人に意識を持ってほしいのに、セミナーには意識が高い人が来る。そこが矛盾で非常に難しいと思うので企業を通じて、啓発を進めていく仕組みができればよいと思う。

男女のアンコンシャス・バイアスを変えていかないと、難しいことは前々から感じている。

子育てに関して、最近、移住関係の仕事をして感じていることは、移住者の方が増える中で、秋田も東京と同じように両親共に県外出身者の場合も増えている。

まだまだ人数が多くないので、どこまで予算をかけてやるべきか分からないが、何かしらの対応が必要なのかもしれない。

東京だと子育てに関するサービスがあるが、秋田だと親に頼りながら、という風土だと思

うので、なかなかサービスがしにくい。

サービスをするにしても、ビジネスとしては、なかなかビジネスモデルが難しい状況なので、そこをどうするのか、ということがあると思う。

私の協力隊の同期も秋田ではないが、産後ケアの間接的な支援をしている。

10年前は、親御さんの支援のもとでやる文化が地方では強いから、そういうものをサービス化すること自体積極的ではない印象だったけれど、先日オンラインのサービスを始めた。

地方でもそういうニーズが高まっている中、オンラインサービスを開始した例もあり、全国的にそういうニーズが高まっているのだろうと感じている。

高校生・大学生向けのワークショップの開催は、非常に良いことで、興味深い。

女性活躍や男性も含めた若者の力を発揮していける秋田にするためには、若者や起業した人たち、働き盛りの女性たち向けの支援やサポート事業も必要であるし、同時に、そういう方々が生かされる魅力的な職場づくりのためのマネジメント研修や環境そのもののアプローチも必要だと思う。

そして、定着や移住に関しても未来の大人になる学生への投資が絶対的に必要だと思っており、高校生向けのラウンドテーブルは、素晴らしいと感じている。

更に言えば、高校の中でキャリア支援をして、何をどうしたいのか、結婚のライフプランを立てていくと同時に、仕事に関しても、自分が何をしたいのか、どういう適性があるのか、ということを経々考える機会を作っていくことが大事だと思う。

自己理解を深めながら、人生を創造していく、キャリアを進めていく、という文化そのものを、高校の時から時間を取ってやっていただけると、より良いと思う。

移住定住にも関わってくると思うが、高校生とか大学生の就活応援事業として相談や発信を強めていく事業においても、どういう企業があるのか、どういう素敵な大人がいるのか、どういう思いを持って仕事をしているのかを知ることが、非常に大事だと思う。

通り一遍に「県内にこういう企業があります、この職場はこういうものです」という職場見学や情報伝達だけではなく、物語性があったり、エモーショナルなものだとより伝わるので、そのやり方や質が非常に大事だと思う。

五城目町にいる時も、高校でキャリア支援プログラムを実施した。

町民20名のライフヒストリーを高校生にインタビューさせ、紆余曲折を経ながらも、今こういう思いで活躍している大人がこの町にいるということを知ってもらうことで、もう就職が決まっていた子たちも、秋田に戻ってきたいという思いが、アンケートに沢山出てきた。

これは本当に効果のあるプログラムだと思うので、そういうものを中学校や高校で導入すると同時に、自分は何をしたいのかということと向き合う時間を設け、伴走支援していくといったキャリアサポートの視点が県全体としてあると非常に良いし、更にパワーアップできると思う。

●原田委員

県内で子どもを出産しようとする家庭の経済性について、現在どのレベルの方が一番多い層なのかを全然分からないが、支援事業の中で給食費や医療費の支援があるので、これは子育て世代にとって非常にありがたいものだと思う。

この福祉医療費等の助成事業は、初めて実施するのか。これまでも実施してきたのか。

□国保医療室阿部チームリーダー

これまでも実施している事業である。

●原田委員

小さい子どもがいる世帯では、現在の賃金水準に満足していない方が多いと思うので、東京都のように全額とまではいかないが、ぜひ続けて、更に充実させることで、秋田は子育てがしやすいという視点からも、良いポイントになると思う。

助成方法も、医療機関を受診して、医療費を払って終わりぐらいのシンプルさだと良いのかなと思う。

□国保医療室阿部チームリーダー

1レセプト当たり1,000円を上限に自己負担が生じる場合もあるが、窓口でかかる経費を県と市町村で助成するものである。

●能登部会長

次に、目指す姿4について、説明をお願いします。

③目指す姿4

□橋本あきた未来戦略課長

「新秋田元気創造プラン」戦略4・目指す姿4の主要な事業について、部会資料-2及び3により説明

●能登部会長

今の説明について、意見をお伺いしたい。

●鈴木委員

目指す姿3などに関わってくると思うが、若年女性が生きづらさを感じないとか、活躍できるという言葉が出てくるが、それぞれの女性によって、生きづらさを感じる点も違うし、活躍という言葉がこの資料にたくさん出てくるが、活躍とは何なのか。

先ほどから考えているが、女性の活躍はもちろん人それぞれであるし、私たちの方向性も共通の認識を持てるのか、ということが、スタート時点でどうしたら良いのか。

男性の活躍とは、仕事をバリバリすることと言われても、私たちの固定観念であり、女性の活躍とは何なのか。

子どもを出産できるのは女性だけで、出産する、しないの選択、出産した女性と、していない女性、結婚している、していない、によって変わると思う。

仕事をバリバリすることが活躍なのか、それとも子育ても仕事もして、バランスをとることが活躍だとも考えられると思うので、定義はできないが、活躍という言葉を使う、良い考え方があればいい。どういうことが活躍なのか。

●石田委員

若年女性が活躍できる環境や若年女性の定着・回帰に向けて活躍できる環境づくり、ということだと思うが、この「女性活躍」という言葉自体が議論されていて、よく分からないまま、誤解もありながら進んでいる印象はある。

いわゆる政策的な女性活躍は、仕事場のキャリアのことを示しているはずで、私も女性たちが仕事においてもっと活躍してほしいと思っている。一方で、「活躍」とは何を示すのか？ということ幅広い意味を持つので、各自が持つ生き方の価値観が否定されるように感じられる方もいるのだと思う。そのメッセージの伝え方は簡単ではないかもしれないが、整理が必要かもしれない。

職場に限った場合でも、職場の中で一人ひとりの価値観が満たされて、満たされるとエンゲージメントが上がり、モチベーションも上がり、仕事に対するコミットメントが上がり、本人も楽しくなるし、会社の生産性も上がる、というエビデンスを基にすれば、先ほどの私の話ともつながるが、本人の価値観やビジョンを自己理解する機会づくりが大事だと思う。

今、政府が促進しているキャリア自律という言葉だと、自律だから自己責任で一人でやりなさいと誤った認識をされてしまうが、実はそうではなく共に刺激し合う場、対話する場があってこそ、自己理解ができるので、そういう場を共同体の中で作っていこうということである。

だから、高校や教育現場、そして企業の中でも、そういう場をいかに作るかが大事であり、目指すべきキャリアを見つけた場合、結果的に県外へ転出するかもしれないが、そういう機会をくれた秋田への思いは強くなり、その人たちがいずれ帰ってくるかもしれない。

自分がやりたいことを見つけられる場を、随所に、どのように作るかが大事だと思う。

●鈴木委員

今年になり、妻が正職員として勤めていた保育士を辞め、今は私の自営業の手伝いなどを行っている。

遅番や早番がなくなり、しっかり子どもの面倒を見られる、お迎えに行ける、晩ご飯を作

る時間ができて、私から見て、彼女はとても生き生きしており、子どもがママと触れ合う時間が増えたので、家族円満である。

そのおかげで、私が仕事に全力で向かえる時間も増え、サーモンを使用した海鮮丼を仲間と始められる余裕ができたので、私からしたら、彼女は大活躍している。

だから、この「活躍」が、職場でキャリアアップをする女性だけを言うのかと疑問を持ち、話をしたところである。

●能登部会長

「活躍」という言葉に関してはこれから皆さんと一緒に考えていきたいが、それぞれが輝ける場所を作るなど、いろいろあると思う。だから、皆さんと議論した結果で、言葉を選んでいきたいと考える。

目指す姿5について、説明をお願いします。

④目指す姿5

□田口温暖化対策課長

「新秋田元気創造プラン」戦略4・目指す姿5の主要な事業について、部会資料ー2及び3により説明

●能登部会長

フードバンクというのがあり、高校生と一緒にフードドライブをやっている。

自分では要らないものを提供して、必要としている人に配っていく。

そういうエコ活動をしていても良いと思う。

●石田委員

啓発活動に共通してソーシャルマーケティングの考え方が大事だと思う。関わることで楽しいと思えることや、生活者のニーズと課題をどうつなげるか。

人間の心理は、どうしても自分の興味で動くので、人間の心理とこの社会課題をどう結び付けていくかという、ソーシャルマーケティングの領域だと思う。

●原田委員

今、フードロスも大きい問題になっており、県内でも、秋田市は特に大きいスーパーが大量に惣菜や弁当を出すので、処理の流れを教材にして、子どもたちにフードロスの問題を一つ、この課題の中に入れても良いと思う。

伝えていく上でのデザインや項目についても、15年ぐらい同じものを見ている気がするので、そろそろ少し変えていきたい。

どこに的を絞っていいかが分からないということは、環境問題の難しさである。

表現の仕方やデザイン、ターゲットを分けて、やり方を変えることも、試行していくべきタイミングだと思う。メニューの刷新ではないが、地球温暖化防止活動推進センターが都道府県に1か所ずつあるので、成功事例なども参考にしてほしい。

県民がせっかく関心を持っていても、「分かる」「見たことがある」「去年と同じだった」となると、目新しさがなくて、興味が引けてしまう。

今回から、「あきたエコフェス」ということで、内容も刷新されるので、今必要とされる環境活動の軸に切り替えていくタイミングではないかと、この資料を見て少し感じていた次第である。

それから、秋田県は古い住宅が多いので、どうやったら、冬寒くない、夏はエアコンがなくても過ごせる住宅に切り替えていけるか。新築される方は、それを念頭に置いて家を建てると思うが、問題は50年も60年も前からあり、建て替える機会を逃している高齢者が住む家である。

古い住宅をリフォームしようと思える取組を絡めながら、省エネや断熱化に関する助成制度を伝えれば、関心を持つ方も増えるかと思う。

●能登部会長

環境については、ソフト面のほか、ハード面でも考えられると思う。今皆さんに御意見をいただいたので、まとめていきたいと思う。

最後に、目指す姿6の説明をお願いします。

⑤目指す姿6

□信太デジタル政策推進課長

「新秋田元気創造プラン」戦略4・目指す姿6の主要な事業について、部会資料ー2及び3により説明

●能登部会長

行政のサービスに関しては、いかがか。

●鈴木委員

最近、合同会社の立ち上げや企業との契約の時に、印鑑証明書を必要とする場面があり、その度に役所に行った。今はコンビニなどでも受け取れるようになっているが、そもそもの部分で必要な場面が多い。

効率化のために、そもそもの制度で必要な場面を減らすことを国と連動しながら実施していただきたい。

●原田委員

最近、オープンデータのウェブサイトを活用しているが、必要なサイトにたどり着くまでに時間を要したことがあった。

また、エクセルファイルが非常に多くて、GISデータが横手市の2件だけだった。仕事でマップを作るときは、例えば、風致地区であるかどうか、市街化区域なのか、森林なのかを、マップ上で自分のデータに取り込むためにGISデータが必要なので、マップの充実をお願いしたい。

電子申請は、データ加工しにくいファイルがなくなり、大変進化したと思う。

押印する申請については、国も率先して減らしているなので、そこもぜひ御尽力いただけると、私どもも大変スピーディーに手続きができると思う。

□信太デジタル政策推進課長

オープンデータは188件あり、統計データや商業的統計データ、地理的データも含めて公開をしているところである。

新サイトは、今年3月に開設をしたところであり、まずPDF形式のファイルを排除して、二次利用が可能なデータ形式のものの掲載を進めていくことにしている。

これから、まだまだ改善するところがあると思うので、そこは引き続き進めていきたい。

手続きについても、県独自のものではなく、国の法令等に基づくものもあるので、そういったものは国の法改正などの進み具合とも連動しながら進めていきたいと思う。

●能登部会長

次回、7月上旬に2回目があるので、その時に次年度の提案を皆さんと一緒に考えていきたい。

ここで意見交換を終了させていただく。事務局から何かあるか。

□事務局

今後の進め方等について説明

●能登部会長

進行を事務局にお返しする。

□事務局

長時間にわたり御審議いただき、感謝申し上げます。

以上をもって、令和5年度秋田県総合政策審議会第1回未来創造・地域社会部会を閉会する。

以上